

現場突撃型ローカルマガジン

ながもの がた)1



“ライティング・コミュニケーター”
南加茂台に現れる。

ここは、木津川市・南加茂台。



木津川市は、京都府の最南端に位置するまちです。奈良時代には一時的に都・恭仁京(くにきょう)が置かれた歴史があり、今も名残が地名に残っています。一方で、新しいまちづくりも進み、古いものと新しいものが調和する場所でもあります。

その木津川市の南東部にあるのが、南加茂台(なかもだい)です。昭和54年から開発されたニュータウンで、これから

までの約45年間に多くの人が移り住み、現在は約5千人が暮らしています。高齢化が進みつつあるなかでも、公民館では講座やサークル活動がおこなわれ、地域の中にゆるやかなつながりが続いています。私たち地域おこし協力隊は、この南加茂台を拠点に、地域に寄り添いながら暮らしお魅力を伝える「ライティング・コミュニケーションセンター」の活動をおこなっています。南加茂台に暮らす人々や日々の出来事に目を向け、取材や交流を通して、このまちならではの「物語」を言葉で届ける役割を担っています。

この情報誌『ながものがたり』という名前には、「南加茂台(なかもだい)」で暮らす人たちの「物語(ものがたり)」を、取材や交流を通して丁寧に言葉にして伝えていきたいという思いを込めてています。団地の内と外にも届けたい小さなメッセージとして、一人ひとりの声や風景が、誰かの心にそっと響くことを願っています。

までの約45年間に多くの人が移り住み、現在は約5千人が暮らしています。高齢化が進みつつあるなかでも、公民館では講座やサークル活動がおこなわれ、地域の中にゆるやかなつながりが続いています。私たち地域おこし協力隊は、この南加茂台を拠点に、地域に寄り添いながら暮らしお魅力を伝える「ライティング・コミュニケーションセンター」の活動をおこなっています。南加茂台に暮らす人々や日々の出来事に目を向け、取材や交流を通して、このまちならではの「物語」を言葉で届ける役割を担っています。



私たちは、南加茂台公民館を拠点に活動しています。地域の行事に参加したり、日々の出来事を一緒に体験したりしながら、まちの魅力を言葉や写真で伝えています。ただ取材するだけでなく、地域の一員として関わること。それが、私たちの役目です。



畑で楽器の演奏をしました。自然の中で奏でる音はいつもと違う心地よさがありました。



南加茂台小学校での田植え体験に参加しました。田んぼのある地域でしか味わえない貴重な時間を過ごしました。

地域おこし協力隊の
とあるしおにち
たぶともだいです。

- 8:30 公民館へ出勤・予定確認
- 9:00 Instagram の投稿編集
- 10:00 公民館のサークル活動を取材
- 12:00 お昼休憩
- 13:30 「ながものがたり」の打ち合わせ
- 15:00 「ながものがたり」編集作業
- 17:00 退勤

リラッカス



ゆるやかな坂道を下ると、

遠くで竹林のさわめく音が耳に届く。

「ここを曲がれば、もうすぐかな」

鳥のさえずりと風に揺れる木々の音が、

静かな朝に響いてる。

南加茂台のまち並みの先、

緑の囲まれた静かな場所で

今日もりの朝か訪れようとしている。



03 / ものづくりに生きる、南加茂台で見つけた僕の時間

05 / 南加茂台の朝、当尾のラジオ体操へ

Born

加古川市



南加茂台

Based

「ここにちは！」

工房の玄関先で手を振る浅尾さん
たちの笑顔に迎えられると、まるで親
戚の家に遊びにきたようななそんな懐か
しさを感じさせてくれる。



南加茂台在住
浅尾さん

「このまちで、本当に
いいのだろうか？」

兵庫県加古川市で生まれ育った僕
は、昭和の終わり頃に南加茂台に移り
住んだ。労働者住宅生活協同組合が
開発した新興住宅地に、紹介を受けて
応募したのがきっかけだった。南加茂
台は、同じような年齢層や家族構成の
人たちが集まる場所だった。

「みんなが同じようで逆に大丈夫かな」
と不安を感じていた。小学校の教室は
児童で溢れ、教室が足りなくなつた。
グラウンドにはプレハブ教室が並んだ。

顔も知らない隣人たち

僕は大阪の会社に通い、毎朝6時過ぎの電車に揺られて出勤し、夜9時を過ぎて帰宅する生活を続けていた。家は寝るためだけの場所。近所付き合いなんものはほとんどなく、子育ても自治会の活動もすべて妻に任せていた。

ものづくりに生きる

～南加茂台で見つけた僕の時間～

工作品が上手くて毎日も
そういう日も二日も来ない
誰かと茶って帰る
浅尾



「このままではいけない」と思うことはあつたが、仕事中心の暮らしは変わらなかつた。

駅へ向かう足を止めることもなく、今日もまた、隣人の名前を知らないまま時間だけが過ぎていった。

自由自在になつたはずの時間のギヤップ

仕事をリタイアし、自由の身となつた。山登りや旅行、四国遍路に挑戦した。

ずっと夢見ていたことを次々と叶えていた。しかし、あれほどやりたいと思っていたのにどこか心は満たされない。僕は、ふと思った。

「個人的な欲求では、第二の人生を楽しむことはできないんだ。今僕が住んでいいる地元のことを知らなければ意味がないんだ」。その気づきが僕の価値観を一変させた。

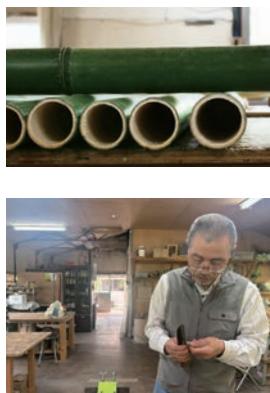


竹がつないだ新たな道

ある日、地域の文化祭で竹工房の展示を目にした。僕は「これだ!」と思い、その場で入金を申し込んだ。当初は竹林の間伐ボランティアから始まつた活動だが、間伐材を使った竹細工を独学で学んだ。

自己表現の場所

竹を編むうちの7割以上は、ヒゴを作れる時間。竹はまっすぐ伸びているよう見えて、節の部分で曲がっている。それぞれのヒゴには癖があり、その癖を見極めながら編むのが楽しい。そして、道具は竹割などノコギリしか使わない。この作品を使ってもらう人のことを想像しながら、手作りにこだわる。僕が通う工房では、見学会や体験会をしている。「ここ、楽しそうだな」と誰かがふらつと立ち寄ることが、僕の何よりの喜びだ。



する。2年前から教室の生徒と「竹どんぼ」というバンドを結成し、年に数回地域の文化祭や高齢者施設を訪問し、竹と音楽の二刀流を楽しむ。
僕にとっての生きがいは、誰かとつながり、自分を表現すること。現役時代には味わえなかつた、穏やかで豊かな時間が、今ここにある。

本
馬
日
記

竹
と
か
隊
の



工房で竹細工を体験した。穏やかな笑顔の浅尾さんと話しながら竹を編み始める。規則的な動きに没頭できそう。竹は細く折れそうに見えるけど、思った以上に丈夫。不器用な私の手でも、少しずつ竹が形を変えていくのがわかる。そのとき浅尾さんがものづくりを通じて大切にしているものを、ほんの少しだけ理解できた気がした。

南加茂台の朝、当尾のラジオ体操へ

カーテンを開けると、窓の向こうには

やわらかな朝の光が差し込んでいた。

今日は南加茂台に住むともこさんと、

そのご主人と一緒に、当尾でおこなわれ

ているラジオ体操に参加する日。眠い

目をこすりながら外に出ると、朝の空

気が思いのほか澄んでいて、気持ちが少

しシャキッとする。ともこさんの家の前

に着くと、笑顔で「おはよう！」と迎え

てくださったその表情は、すでに元気そ

のもの。ともこさんの一日は、ここから始

まる。

緑の道と、ちいさな寄り道

ともこさん夫妻が毎朝歩くのは、往復

で一時間半にもなる散歩道。「寄り道
ばっかりしているからね」と笑うともこ

さんの言葉通り、道中には見どころが

いっぱい。蝋梅や木蓮の木があり、川が

流れれる音がする。見上げれば、木々の間

から朝の光がこぼれている。「この犬よ

くなついてかわいいんだよ」犬好きのと

もこさんは、馴染みのワンちゃんたちに

あいさつを忘れない。猫にも声をかけ、

「ご主人は静かにその様子を見守る。お

ふたりのやわらかな空気が、道のりを

あたたかく包んでいた。

まず、広場で、深呼吸

たどり着いた当尾の郷会館には、す

でに何人かが集まっていた。

「おはようございます」の声が、自然に

あちこちから聞こえてくる。

それだけで、今日もいい一日が

始まりそうな気がしてくる。

ラジオ体操のカードに

スタンプを押し、

合図の音楽が流れるごとに、

ゆったりと体操が始まり

体をほぐしていく。

ともこさんと一緒に。

ご褒美と、暮らしのリズム

帰り道、ふと立ち止まってあたりを見回すと、道のあちこちにぽつぽつと吊り店があり、都会では見ないその光景は、どこかのんびりとしていて、散歩の景色にぴったり寄り添っている。「ここへん、ご褒美が多いから歩くのが楽しみなんだよね」とともこさんは、そう言って笑顔でほほえみ、気になるお店をのぞいたり、犬を飼っているお宅にお邪魔して会話を交わしたり、小さな楽しみが散歩のモチベーションになっていく。たしかに、このまちは暮らしおそばにご褒美がある。吊り店が点在し、田んぼがゆったりと広がり、自然がそつと思いでいる。日常と日常のあいだに置かれた、小さなりズムのようなもの。鶏を飼っているお宅では、生みたての卵をいたいた。こんな光景とともに素敵だ。

ともこさんは、こどもも大好きで、放課後に小学校でボランティア活動をしているという。さらに、毎週木曜日には公民館でのピンポンサークルに参加。地域とつながる時間を大切にしながら、自分の「好き」も丁寧に続けている。そんなともこさんをそつと支えるご主人の存在も、あたたかな散歩道の一部。



当尾の郷 ラジオ体操

8時30分～

月曜日・祝日・年末年始を除いて毎日実施

当尾の郷会館※

当尾小学校を活用した地域交流施設。会議室や体育館などがある。毎月第1・3日曜日には「当尾の郷まつり」が開かれ、地域の人と自然に交流できる場になっている。

〒619-1131
木津川市加茂町辻下垣外16番地
TEL 0774-76-2234

このまちの朝には、確かな豊かさがあつた。朝は少し違う雰囲気。日常の中より感じられる朝。今日から私も、朝の時間をちょっとだけ大切にしてみようと思う。



ここは、やさしい風が吹き抜ける丘のまち「南加茂台」。
坂道の先には、のんびりとした時間と、
みんなの笑顔が広がっています。

南加茂台って
どんなまち?



Shop list

- ①ころぼん塾・ワンズホームフィジカルセンター
- ②ワンズホームアクティブセンター・ケアセンター
- ③ブックスなかた
- ④理容シンカナ
- ⑤フローリストハママ
- ⑥山城ガスセンター いづつや
- ⑦新築・リフォーム(株)マーシュ
- ⑧(株)セイキョウホーム住宅相談センター
- ⑨ショップむらた(たばこ屋)
- ⑩コトブキ(花屋)
- ⑪はんなり弁当
- ⑫五丁目パン屋 Pono
- ⑬大和屋クリーニング
- ⑭株式会社 都らいぶ アピック



[公式] Instagramで
日々の活動を
投稿中!



栗本
思っています。

4月から公民館での活動が始まり、南加茂台のみなさんと関わる機会が一気に増えました。写真は、公民館で活動されている地域の方々との集合写真です。地域の方々の明るさや行動力にふれる中で、その元気さに毎日刺激を受けています。一方で、どうすれば南加茂台の魅力をうまく伝えられるか悩むこともあります。そんなときにはデザイン面で支えてくださったのが、「木津川クリエイター部」のみなさんです。いただいたアドバイスや工夫のおかげで、表現の幅がぐっと広がりました。これからも、地域の魅力を伝える活動を楽しみながら続けていけたらと思っています。

編集後記

